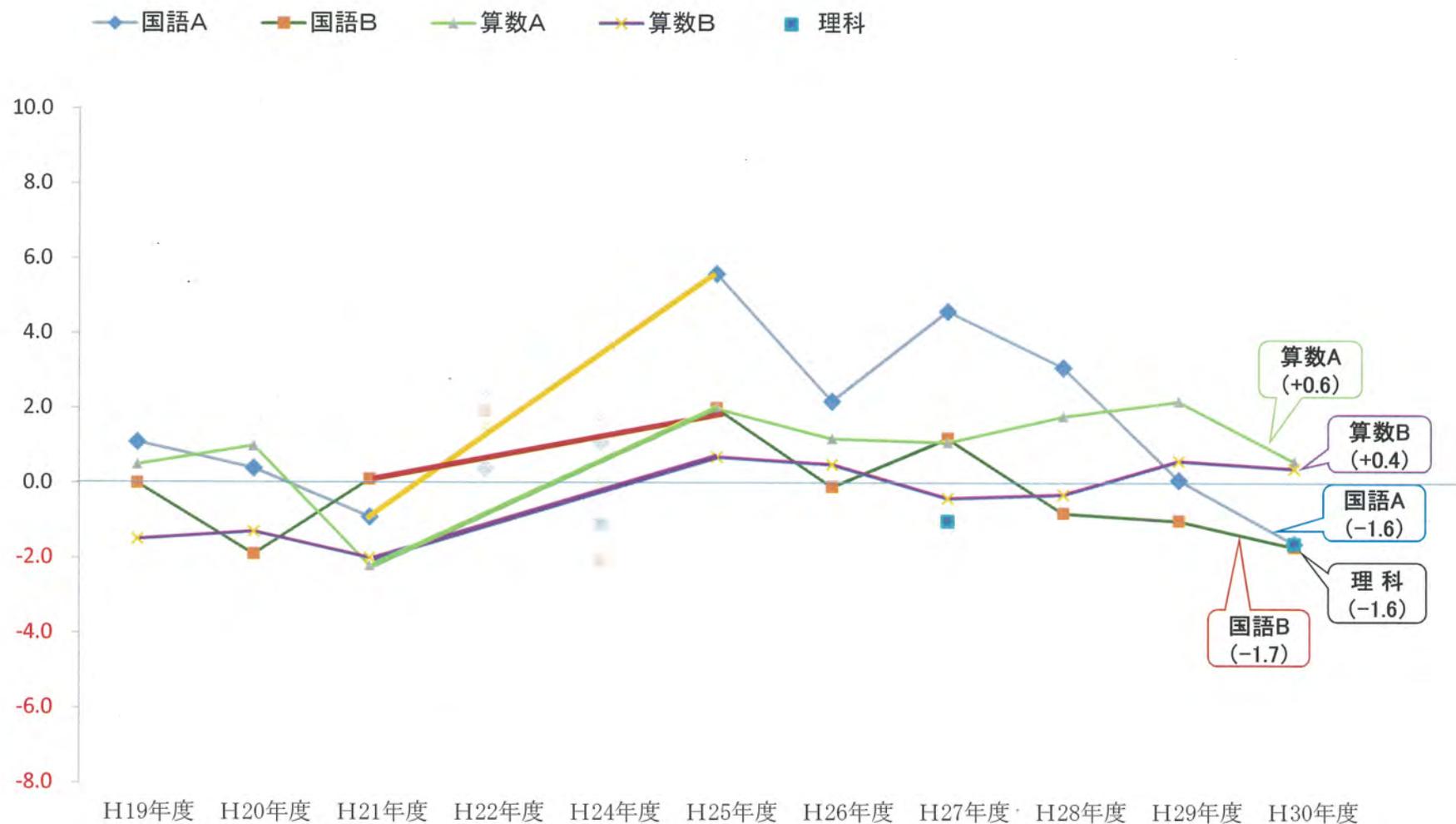


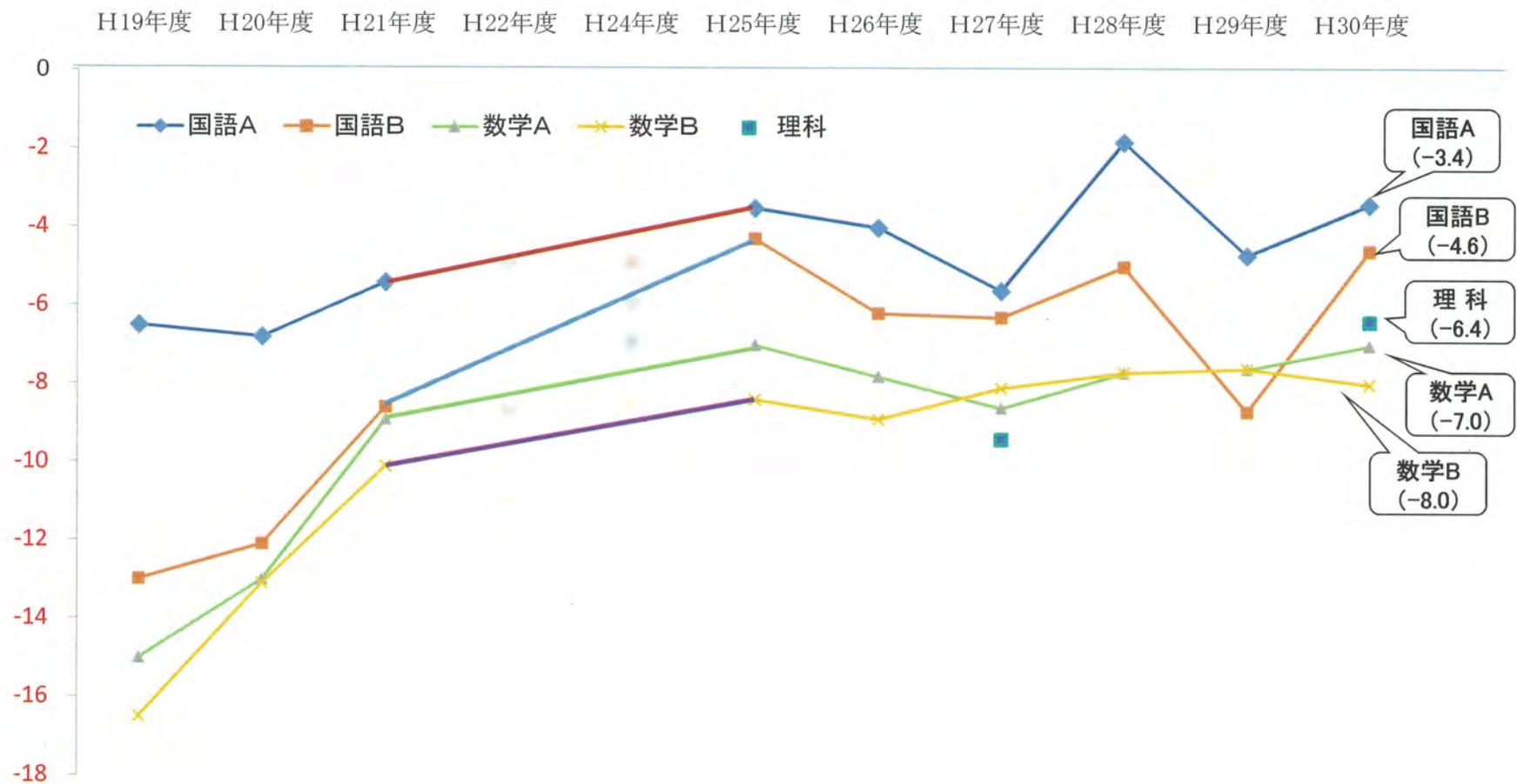
# 学力向上対策

ページ	内容
1～4	高知市の学力の状況
5～6	学力向上推進室の設置
7～8	高知市立小・中学校教員の年齢別人数
9～10	平成30年度学力向上推進室の訪問内容
11～20	学校における授業改善の取組の状況
21	平成31年度の学力向上の取組

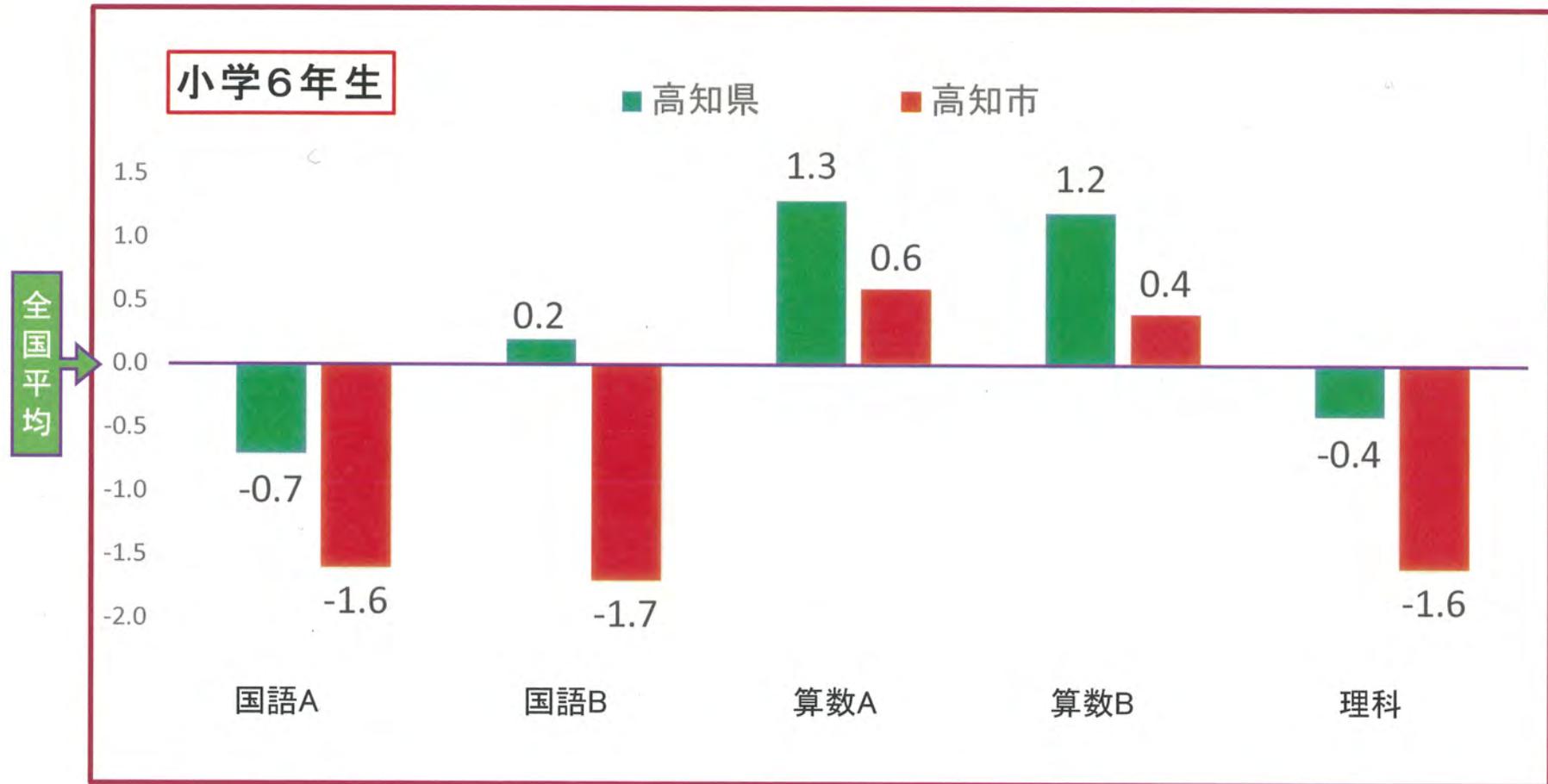
# 平成19～30年度 全国平均との差の推移（小学6年生）



# 平成19～30年度 全国平均との差の推移（中学3年生）

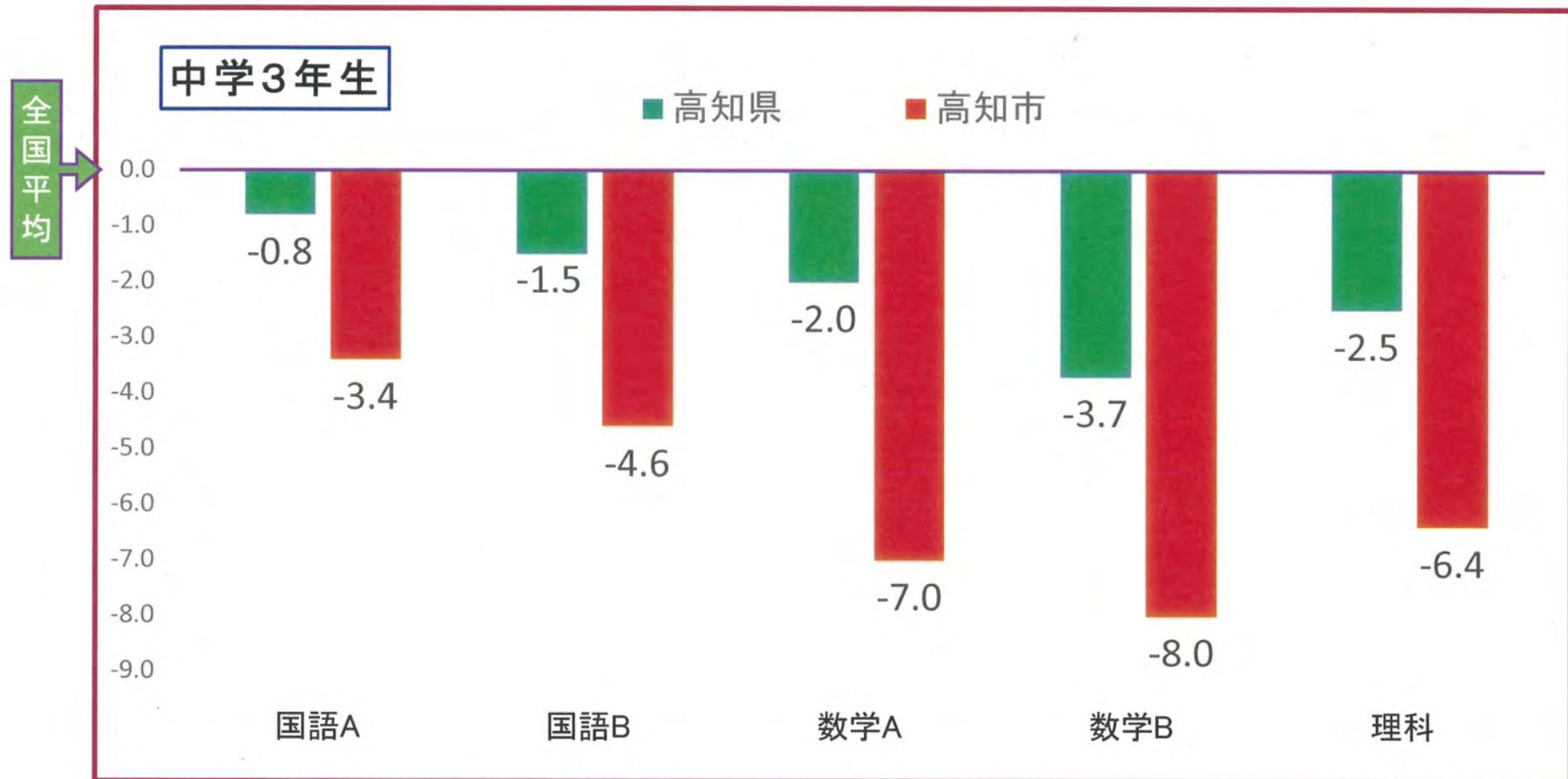


# 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果



※ 全国平均正答率を「0」とした場合の差

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果



※ 全国平均正答率を「0」とした場合の差

# 学力向上 *Active* アクティブ・プラン

平成29年度～平成32年度

## Active 1 各事業のRPDCAサイクルを確立し改善を図る

- 次の4点を通して改善を図る。
- ①これまで以上に機動性をもって指導できる体制を強化するための学力向上推進室を設置して学校訪問と進捗管理を行う。
  - ②学びの羅針盤（授業づくりハンドブック）及び授業アイデア例の活用と実践
  - ③学年末の「学び直しの場」を設定
  - ④単元テストによる個人カルテ・検定の活用

学びの羅針盤

授業アイデア例

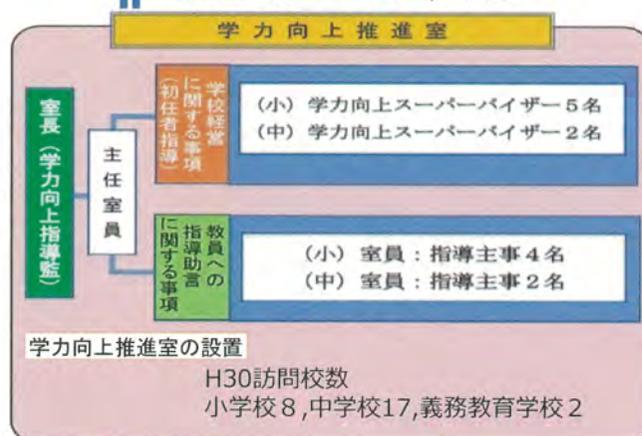
単元テスト 個人カルテ

## Active 2 各校の状況分析と必要な手立ての提案

学力向上総括専門官を招聘し、指導主事等との訪問指導により、各校の状況分析と必要な手立てを提案する。特に、算数・数学を核とした授業改善を推進し、その取組を高知市全体に普及することで学力の向上につなげる。

教員の授業力向上や授業改善を推進するため、学力向上総括専門官を継続的に派遣する。

H30訪問校数＝小学校4, 中学校3



## Active 3 新学習指導要領の理解と教育課程の編成

新しい時代を切り拓いていく資質・能力の育成を目指して、新学習指導要領の理解を深め、移行期の取組を推進するために、教育課程に関する研修や学校訪問を実施する。また、カリキュラム・マネジメントモデル事業や教育課程拠点校事業を継続し、取組の改善・拡充を図る。

### 教育課程に関する研修・学校訪問

新学習指導要領に関する研修会の開催  
教育課程の編成をサポートする学校訪問

### カリキュラム・マネジメントモデル事業（H29年度から継続）

研究モデル校において、先進地への視察やモデルプラン作成、県外講師を招聘しての研修など、先進的に新学習指導要領を具現化する取組を推進する。

- H30モデル校
- 小学校5
  - 中学校2
  - 義務教育学校1

### 教育課程拠点校事業（H28年度から3年目）

- 国語（潮江東小）、社会（昭和小）、算数（泉野小）、理科（高須小）

## 学力対策第二ステージ（平成24年度～平成29年度）

H29 高知市学力対策第二ステージ  
—小学校 共通課題—

小学校学力全国トップレベル達成！体力向上！

①学力・体力向上のRPDCAサイクルを徹底

②質の高い問題との出会いの場を設定

③徹底した基礎・基本の定着「効く補習」

④活用力向上を目指した授業改善「効く授業改善」

- ①学力・体力向上のRPDCAサイクルを徹底
- ②質の高い問題との出会いの場を設定
- ③徹底した基礎・基本の定着「効く補習」
- ④活用力向上を目指した授業改善「効く授業改善」

校長会からの学力対策「学力・体力向上八策」

H29 高知市学力対策第二ステージ  
—中学校 共通課題—

基礎・基本の徹底

学習の質を高める

地域学校協働本部

キャリア教育の推進

朝のあいさつ運動

校内研修の活性化

- ①キャリア教育の推進
- ②朝のあいさつ運動
- ③校内研修の活性化
- ④基礎基本の徹底

校長会からの学力対策「具体的な6つの取組」

# 学力向上推進室の設置

## 課題

### 管理職の大量退職

- ◎組織的・機能的な学校運営
- ◎ミドルリーダーの育成

### 若年教員への支援

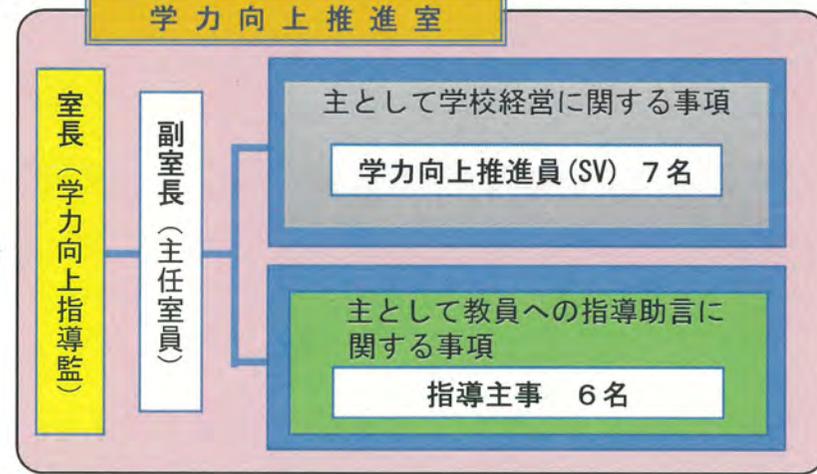
- ◎効果的なOJTの実施
- ◎指導技術の継承

### 新学習指導要領への対応

- ◎資質・能力の育成をベースにした教育課程の編成
- ◎カリキュラム・マネジメントの充実
- ◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

設置

## 学力向上推進室



## 活動の概要

学校運営に対して支援を行う学力向上推進員と、教員に対して指導・助言を行う指導主事が、継続的に学校訪問を行い、学校経営と授業改善の両面から指導支援に当たる。

- ◎ 高知県学力定着状況調査(県平均比)  
 小学4年生 105 (H29:国 97 算97) 小学5年生 105 (H29:国100 算97)  
 中学1年生 100 (H29:国 93 数91) 中学2年生 100 (H29:国 96 数93)
- ◎ 全国学力・学習状況調査(全国平均比)  
 小学6年生 105 (H30:国 97 算101) 中学3年生 100 (H30:国 94 数87)

## 退職・新採用の状況 (H26~30)

小学校		H26	H27	H28	H29	H30
退職	校長	6	7	8	11	9
	教頭	2	3	6	4	4
	教諭等	45	53	53	52	50
新採用	教諭	23	24	33	36	50

(※退職は3.31付け, 採用は4.1付け)

中学校		H26	H27	H28	H29	H30
退職	校長	2	4	0	2	3
	教頭	1	2	2	2	1
	教諭等	17	18	14	14	26
新採用	教諭	17	16	20	20	21

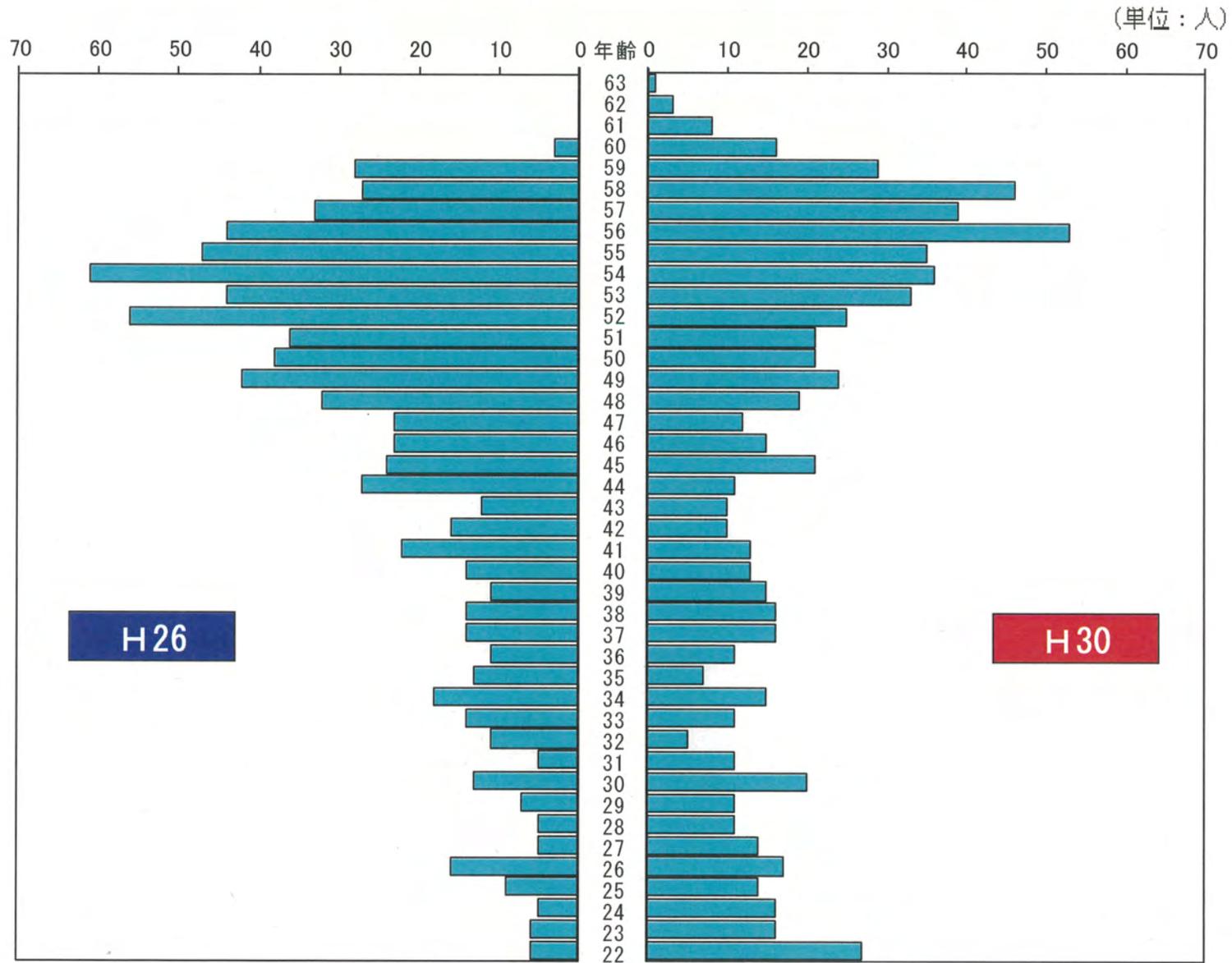
## 教諭等の年齢構成 (H26~30)

小学校		H26	H27	H28	H29	H30
主幹教諭 指導教諭 教諭	50・60代	49.9	52.0	51.8	50.3	47.6
	40代	28.1	24.4	22.0	20.9	19.3
	30代	14.9	15.6	14.7	14.5	16.6
	20代	7.1	7.9	11.5	14.2	16.4
40・50・60代		78.1	76.4	73.8	71.2	66.9
20・30代		21.9	23.6	26.2	28.8	33.0

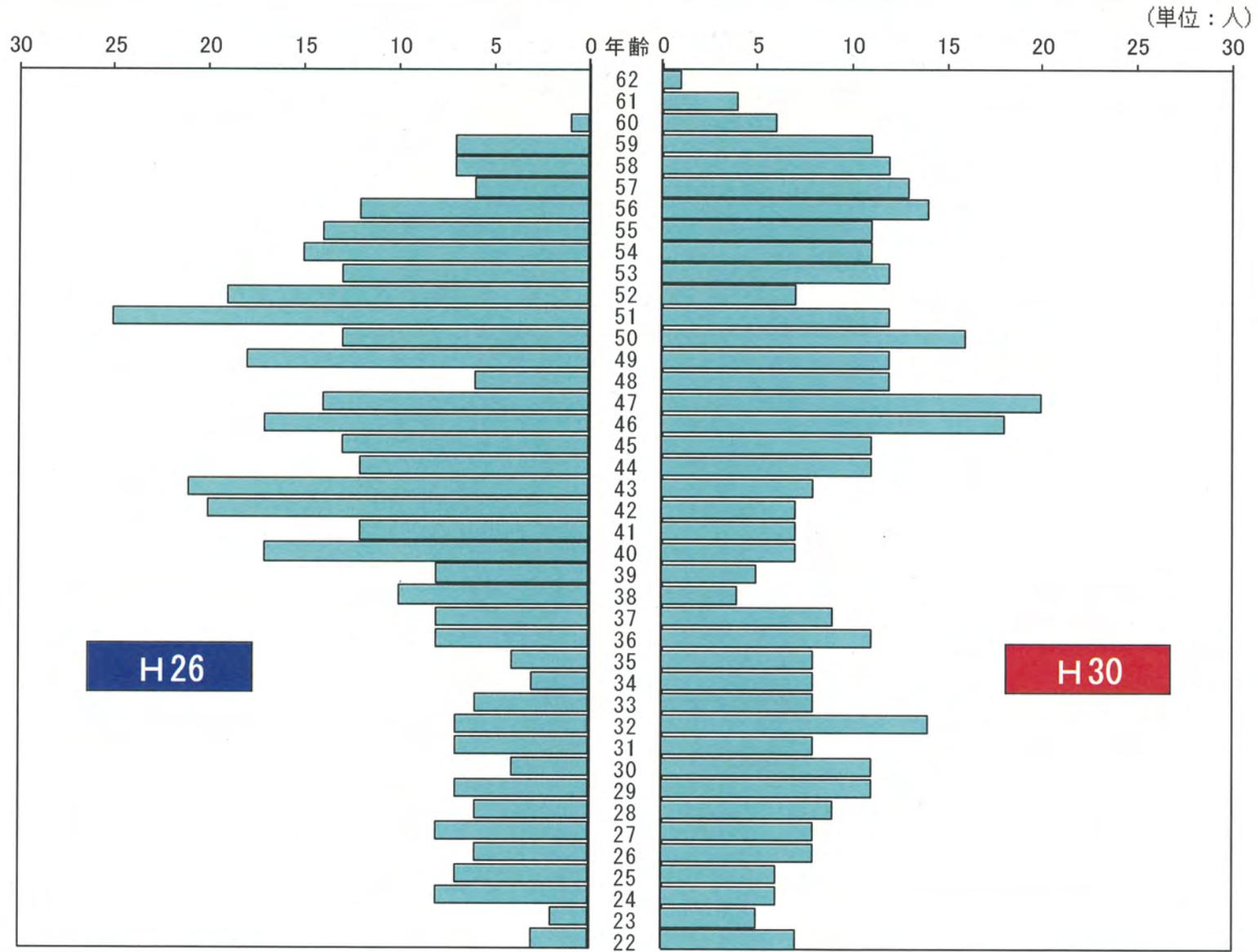
(%)

中学校		H26	H27	H28	H29	H30
主幹教諭 指導教諭 教諭	50・60代	33.5	34.7	32.8	33.7	33.2
	40代	38.1	35.0	36.1	33.4	28.9
	30代	16.5	17.6	19.1	19.6	22.2
	20代	11.9	12.7	12.0	13.3	15.7
40・50・60代		71.6	69.7	69.0	67.1	62.1
20・30代		28.4	30.3	31.0	32.9	37.9

高知市立小学校（主幹教諭・指導教諭・教諭） 年齢別人数



高知市立中学校（主幹教諭・指導教諭・教諭） 年齢別人数



# 平成30年度 課題解決に向けた授業力向上のための学校訪問(小学校)

## 現状

- ・学力調査等で見られた課題を解決するための授業改善が十分進められていない。
- ・若年教員が増加し、育成が急務である。

## 期待される成果

- ・H31全国学力・学習状況調査: **全国平均比 105 以上**
- ・校内でのOJTの活性化。
- ・各校における組織マネジメント力の強化。

## 高知市小学校への重点訪問



全国学力・学習状況調査結果に見られる高知市小学校の課題を解決するために、重点訪問を行い、授業力向上を推進する。

### 市・学力向上のための授業改善研究指定校 9校

- ・国語・算数における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの推進
- ・ミドルリーダーの育成
- ・若年教員の授業改善促進



H30: 9校  
H31: **新規9校**  
H32: **新規9校**

指導主事 2~3人 ※20回訪問  
学力向上スーパーバイザー 2人 ※10回訪問

### 県・「高知の授業づくり改革プラン」指定校 7校

- 【学力向上推進対策事業 授業づくり講座】6校
  - ・新学習指導要領の趣旨理解
  - ・授業イメージの共有
  - ・指導観の転換
- 【「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業】1校
  - ・小中9年間の学びを軸にした授業改善の充実と授業力向上

指導主事 3人 ※20回訪問  
統括専門官 ※4回訪問

### 市・H30指定訪問校 7校

- ・「学びの羅針盤」を活用した資質・能力ベースの授業づくり
- ・課題解決を図るための校内研究及び授業改善の推進

指導主事 2人 ※20回訪問  
学力向上スーパーバイザー 1人 ※6回訪問

### 県・「読み」を鍛える拠点校事業指定校 2校

- ・読解力の育成
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・学校図書館教育の充実

指導主事 2人 ※10回訪問  
学力向上スーパーバイザー 1人 ※6回訪問

# 平成30年度 課題解決に向けた授業力向上のための学校訪問(中学校)

## 現状

- ・学力調査等で見られた課題を解決するための授業改善の取組が教科会で十分検討できていない。
- ・若年教員が増加し、育成が急務である。

## 期待される成果

- ・H31全国学力・学習状況調査: **全国平均比 100 以上**
- ・校内でのOJTの活性化。
- ・各校における組織マネジメント力、教科会の強化。

## 高知市中学校への重点訪問

全国学力・学習状況調査結果に見られる高知市中学校の課題を解決するために、重点訪問を行い、授業力向上を推進する。

### 市・授業改善プランに係る学校訪問 19校

- ・学力調査で明らかになった課題を解決するための授業改善
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの推進

指導主事 5人 ※8回訪問  
学力向上スーパーバイザー2人 ※4回訪問

### 県・中学校組織力向上のための実践研究事業 及び実践指定校支援事業 16校

- ・組織的な授業改善の推進
- ・教科会の充実

指導主事2~3人 ※6回訪問  
エキスパート ※3~6回訪問

### 県・「高知の授業づくり改革プラン」指定校 6校

【学力向上推進対策事業 授業づくり講座】6校

- ・新学習指導要領の趣旨理解
- ・授業イメージの共有
- ・指導観の転換

指導主事 3人 ※20回訪問  
統括専門官 ※4回訪問

### 県・「読み」を鍛える拠点校事業指定校 1校

- ・読解力の育成
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ・学校図書館教育の充実

指導主事 6人 ※30回訪問  
学力向上スーパーバイザー 6人 ※10回訪問

### 市・H30国語重点訪問校 6校

### 市・H30数学重点訪問校 6校

- ・学力調査結果を踏まえた課題解決を図るための授業改善
- ・「学びの羅針盤」を活用した授業づくりの推進



指導主事 2人 ※20回訪問  
学力向上スーパーバイザー 1人 ※6回訪問

## 3

## 教科会の充実に向けて

## 実際の教科会への訪問の状況（例）

		火	水	木	金
1	授業参観 + 教科会			社会授業	
2				社会部会	
3			数学授業		
4			数学部会	理科部会	
5	国語部会	英語部会			
6	国語授業	英語授業			

# 学力向上推進室の学校への訪問

		4~9月	10月	11月	12月	合計	
訪問人数	学力向上推進員 (スーパーバイザー)	132	67	63	26	288	676
		320		68		388	
	指導主事	679	189	184	96	1148	

自立的な研究推進を目指して

組織マネジメント力、授業力の向上!

10月に県教委から  
3名の指導主事が兼務で派遣



# 学力向上 *Active* アクティブ・プラン 平成29年度～平成32年度（抜粋）

## Active 1 各事業のRPDCAサイクルを確立し改善を図る

- ①これまで以上に機動性をもって指導できる体制を強化するための学力向上推進室を設置して学校訪問と進捗管理を行う。
- ②学びの羅針盤（授業づくりハンドブック）及び授業アイデア例の活用と実践

## Active 2 各校の状況分析と必要な手立ての提案

学力向上総括専門官を招聘し、指導主事等との訪問指導により、各校の状況分析と必要な手立てを提案する。特に、算数・数学を核とした授業改善を推進し、その取組を高知市全体に普及することで学力の向上につなげる。

## Active 3 新学習指導要領の理解と教育課程の編成

新しい時代を切り拓いていく資質・能力の育成を目指して、新学習指導要領の理解を深め、移行期の取組を推進するために、教育課程に関する研修や学校訪問を実施する。また、カリキュラム・マネジメントモデル事業や教育課程拠点校事業を継続し、取組の改善・拡充を図る。

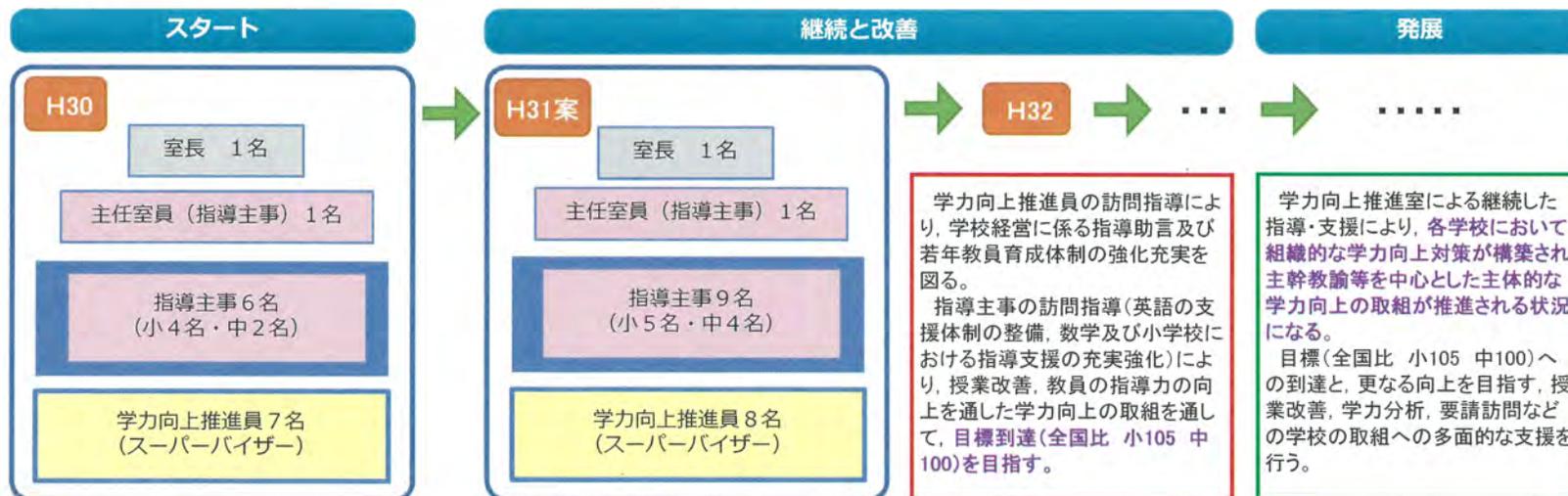
### 平成31年度における学力向上推進室の主な取組

学力向上推進員による学校経営計画に関する訪問（1校当たり年間3回→4回へ増加）と、初任者の育成への支援（1人当たり年間5回）を継続して行う。  
指導主事による「学びの羅針盤」や「授業アイデア事例集」に加え「算数・数学指導実践資料集（仮称）」を活用した具体的な授業づくりや授業改善への指導支援の更なる充実と共に、中学校の教科会への関わりをより深めることで、教員の指導力の一層の向上を図る。

指定校（潮江東小）、拠点校（小学校3校、中学校3校）に対して、高知県教育委員会学力向上総括専門官の齊藤一弥先生から、教材研究や授業研究を通して、新学習指導要領の目指す授業づくりや授業改善の方向性について、引き続き具体的な指導・助言をいただく。また、その内容をHP等での紹介も継続する。  
加えて、拡大された「授業づくり講座」の対象教科（国語、英語、道徳）についても、拠点校、推進校への支援と共に、取組を広く普及するための活動を行う。

小学校は平成32（2020）年度、中学校は平成33（2021）年度の全面実施に向けて、移行期間の最終時期を迎える新学習指導要領の趣旨を、教材研究や授業研究を通じて普及し、子供たちに育成すべき資質・能力を育むための授業づくりを一層推進していく。  
また、学校運営への指導助言等を通じて、組織的なPDCAサイクルを活用したカリキュラム・マネジメントの充実を図る。

### 案 学力向上推進室の活動（イメージ図）



## 1 H30訪問内容

	対象校	主な指導内容	回数(人数)	成果・効果	課題
小学校	「学力向上授業改善研究指定校」 1期・9校	・主体的・対話的で深い学びの授業づくりや若年教員の育成に関わる重点指導を行う。研究指定校をバックアップするための指導訪問を行う。	9校×24回=216回(2名)	◇これまで授業研究などは各校の独自の計画に任せ、県外講師等招聘による授業公開(研究)が年間数回ある程度であったものが、年間を通じ10回以上、指導主事が継続的に授業指導に入り、授業改善を進めることができていた。 ◇同じ指導主事に継続的に指導を受けることにより、学校全体が一つの方向・理論を持ち、授業研究をすることができ、また、個々の教員や学校の授業力の向上の状況についての評価もできるようになった。 ◇国語・数学の中学校教科会に毎月入ることにより、教材分析から授業実施、そして、事後研究と一連の授業づくりについてのPDCAサイクルを回すことができ、教科会の討議内容の質の向上や教員個々の授業力の向上につながっている。	◆訪問指導対象校や対象教科以外からの指導要請が増加している状況にある。特に、小学校では、指定校以外の要請、市としての学力課題解決に向けた要支援訪問等が増加しているが、現在の国語・算数の2名体制では十分に対応できない状況にある。また、英語に関する指導要請が増加してきているが、これは、現在、学校教育課指導主事1名と県教委小中学校課兼指導主事1名という体制では十分に学校の要請に 대응することができない状況である。さらに、中学校のタテ持ちを行う教科や小学校からも更に多くの訪問指導の要請が上がってきている。
	「授業づくり講座」 4校 齊藤一弥学力向上総括専門官	・算数の授業力向上を研究する小学校を対象に教材研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ※拠点校のうち1校「主体的・対話的で深い学びの研究指定校」 ・教材分析・授業公開・事後研究を1サイクルとする。	4校×3回×4講座=48回 +2全体会 計50回(2名)		
	「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校指定」 2校	・読みの力を育成する授業づくりについての研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・読解力を鍛える読み物資料の有効な活用等について指導・助言を行う。	2校×24回=48回(2名)		
中学校	「中学校教科のタテ持ち」 16校	・教科会の充実を図るなど教員同士が教え合い、切磋琢磨するシステムを構築し、また、それぞれの授業力を高めるための学校訪問指導を行う。	継続校10校×15回=150回 新規校6校×20回=120回 270回(2名)		
	「授業づくり講座」 3校 齊藤一弥学力向上総括専門官	・数学の授業力向上を研究する中学校の数学教科会を対象に教材研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・県内の数学授業づくり講座(集合研修)を県の指導主事とともに開催する。※市内の数学教員の参加を必須とする。	3校×3回×4講座=36回 +2全体会 計38回(2名)		
	「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校指定」 1校	・読みの力を育成する授業づくりについての研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・読解力を鍛える読み物資料の有効な活用等について指導・助言を行う。	1校×24回=24回(2名)		



## 2 H31訪問内容予定

	対象校	主な指導内容	回数(人数)
小学校	継続「学力向上授業改善研究指定校」 2期・9校	・組織的な授業研究に向けた学校体制づくりについての指導・助言を行う。 ・主体的・対話的で深い学びの授業づくりや若年教員の育成に関わる重点指導を行う。	指定校訪問 9校×30回=270回(6名) 要支援訪問 15校×30回=450回(6名) 小学校外国語訪問 39校×2回=78回(2名) 計798回(小6名, 英2名)
	拡充「授業づくり講座」拠点校 4校 ・算数3校 他 ・主体的・対話的で深い学び1校 齊藤一弥学力向上総括専門官	・授業力向上を研究する小学校を対象に教材研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・教材分析・授業公開・事後研究を1サイクルとする。	3校×3回×4講座=48回+1全体会 1校×3回×6講座=18回+1全体会 計68回(3名)
	継続「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校指定」 2校 ※「授業づくり講座」国語推進校を兼ねる。	・言語能力、情報活用能力の育成に向けた授業づくりについての研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・「読み」を鍛える資料等の有効な活用について指導・助言を行う。	2校×30回=60回(2名)
中学校	拡充「中学校教科のタテ持ち」 16校	・教科会の充実に向け、教員同士が教え合い、切磋琢磨するシステムを構築する。また、授業力を高めるための計画的、定期的な訪問指導を行う。	国語・数学 16校×36回=576回(5名) 外国語 16校×24回=384回(2名) ※社会・理科 16校×3回=48回 計960回(7名)
	新規「組織力講座」拠点校 3校	・組織マネジメント力の強化に向け、教科主任会、教科会等に対して、訪問指導を行う。	3校×3回×3講座=27回(2名)
	拡充「授業づくり講座」拠点校 4校 ・数学3校 他 齊藤一弥学力向上総括専門官	・授業力向上を研究する中学校の教科会等を対象に教材研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・教材分析・授業公開・事後研究を1サイクルとする。	3校×3回×4講座=36回+2全体会 計38回(2名)
	継続「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校指定」 1校 ※「授業づくり講座」国語推進校を兼ねる。	・言語能力、情報活用能力の育成に向けた授業づくりについての研究や授業研究を進めるための訪問指導を行う。 ・「読み」を鍛える資料等の有効な活用について指導・助言を行う。	1校×40回=40回(2名)

※H31「授業づくり講座」には、国語・外国語・道徳が拡充される。また、中学校の組織力強化に向け、新たに「教科間連携」の枠に横中、行川学園、土佐山学舎が位置付けられることから、訪問要請の増加が見込まれる。さらに、上記訪問以外にも、学力調査分析及び校内研修等への要請訪問が見込まれる。

## 案 3 学力向上推進室の活動の展望(イメージ)

## スタート (H30)

中：指導主事が授業を参観し、教科会において指導助言を行う。  
小：指導主事が授業を参観し、学年会等において指導助言を行う。

## 継続と改善 (H31~)

中：英語を新規で追加するとともに、数学の体制を強化。指導主事が定期的に学校を訪問して、授業や教科会を参観し、直接教員に対して指導を行う。主幹教諭も指導主事訪問に同席することを通して、やがては主幹教諭が全教科に対して指導できるようにしていく。  
小：指導主事が授業を参観し、学年会等において指導助言を行う。メンター制によるOJTや近隣の学校の授業づくり講座に参加して授業を磨くシステムを整える。

## 発展

中：主幹教諭が授業力向上について指導する。  
小：メンター制によるOJTや近隣の学校の授業づくり講座に参加して授業力を磨く。  
自校の教科会や近隣の学校の教科会、また、授業づくり講座に参加して自主的に授業力向上を図っていけるようにする。

